

平成 31 年 奥州市長

新年の抱負

～ 新しい時代の幕開け ～



昨年を振り返りますと、岩手競馬禁止薬物検出問題や総合水沢病院小児科の診療休止など、市民の皆さまにはご心配、ご不便をお掛けすることとなりました。特に医師確保に向けては、奥州医師会との連携のもと、最重点課題として全力で取り組んでまいりました。

一方、スポーツの分野においては、大谷翔平選手が、米大リーグのアメリカンリーグ新人王を受賞、アジア大会のソフトテニス競技で、高橋乃綾選手が金メダルを獲得する

など、本市出身の選手が世界を舞台に活躍するという明るい話題が届けられました。本市出身の選手が活躍する姿は、市民に多くの夢と希望を与え、それが市民の活力へとつながっています。市内の各種団体と市が共同で立ち上げた「大谷翔平選手ふるさと応援団」の活動を通して、今後もふるさとから応援の声を届けてまいります。

さて、今年、市の第2次総合計画に掲げる2つの戦略プロジェクトは節目の年を迎えることとなります。ILCプロジェクトについては、日本政府内での検討が大詰めとなっており、今後の政府判断が待たれるところですが、動向を注視しながら、引き続き積極的な誘致に努めてまいります。人口プロジェクトの推進については、奥州市版まち・ひと・しごと創生総合戦略が31年度までの計画となつ

ており、31年度が計画を見直す時期になります。より実効性の上がる計画を目指して検討を進めてまいります。

第1回大会が全国ランニング大会100撰に選出された「いわて奥州きらめきマラソン」は、昨年5月の第2回大会においても、雲一つない晴天の下、全国から3853人のランナーが参加し、爽やかに奥州路を駆け抜けました。本年は「自分史上最高のRun」を市民史上最高のFun」をキャッチフレーズに5月19日に開催いたします。市民総参加で「ひと」や「まち」の魅力を全国に発信するとともに、観光や産業振興にもつなげ、地域やランナーに愛される東北随一の大会を目指してまいります。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会がいよいよ来年に迫りました。市では「奥州いさわかヌー競技場」

最後に、皆さまのご健勝とご多幸をお祈りし、そして奥州市勢の発展に向け、より一層のご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

奥州市長
小沢昌記

新年あけましておめでとうございます。

昨年を振り返りますと、岩

手競馬禁止薬物検出問題や総

合水沢病院小児科の診療休止

など、市民の皆さまにはご心

配、ご不便をお掛けすること

となりました。特に医師確保

に向けては、奥州医師会との

連携のもと、最重点課題とし

て全力で取り組んでまいりま



<今月の表紙>

絵本の読み聞かせと餅つき

12月8日、牛の博物館での企画展「猪〜まるかじり！ブタ展」の関連イベントとして、今年の干支イノシシとブタにまつわる絵本の読み聞かせと、臼と杵を使った昔ながらの餅つきが同館で行われました。「よいしょ、よいしょ」と掛け声に合わせて杵を振るい、出来た餅はきな粉をまぶして振る舞われ、多くの親子連れなどでにぎわいました。

Public Relations Magazine Oshu City

2019. 1 Vol.155

広報おうしゅう
平成 31 年 1 月号

CONTENTS

2 キラリ輝く奥州人

3 市長年頭あいさつ

4 [特集]増え始めたイノシシ被害 自分たちの土地は自分たちで守る

7 中学生や高校生などの医療費を助成します

多文化共生推進員・社会教育指導員を募集します

8 2019スポニチいわて奥州きらめきマラソン

市民提案型協働支援事業の実績報告会・制度説明会を開催します

9 市政懇談会開催報告

12 街diary

14 ILC希望のひかり

15 せいかつ百科

市長コラム「おうしゅう羅針盤」

16 いいとこ、知っとこ おうしゅう

17 まなびの里

18 もっと安心 ずっとおうしゅう

はい、こちら総合相談室

19 おうしゅう ごさんぽ

姉妹都市 掛川だより

20 インフォメーション

24 奥州遺産



休日には事務所に子どもたちが集まることも

63

村上 麻衣子 さん（42歳）

=水沢東上野町=

子どもたち そして地域のために

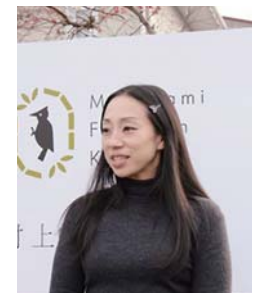
暖かい日差しが入り込む事務所「村上不動産企画」。宅地建物取引士として従事するのは村上麻衣子さんだ。

東京で暮らしていた頃、夫の克之さんと一緒にインターネットでのロシア絵本の輸入販売をしながら、子育てと仕事の両立を模索していた。子どもが5人に増え、東京での暮らしが手狭に感じていたと当時を振り返る。二人で考えた末、夫の出身地である本市へ、5年前に移住する。

新しい生活が始まり、2人の子を出産、7人の子の母親

となった。「生活していく中で物の見方が変わり、地域に密着した仕事があった」と語る。建設業に携わる義父からの勧めで宅建士の勉強を始め、資格を取得。自宅の一角を改装して、夫が代表を務める事務所を昨年夏に開業した。現在の仕事に就いたことで地域のことに興味を持ち、町内会の活動にも積極的に参加している。

子育てと仕事、そして地域のために力を注ぎ続ける麻衣子さん。「成長した子どもたちと一緒に、この地域で仕事ができたら」と目を輝かせる。



むらかみ・まいこ◎昭和51年、千葉県千葉市生まれ。東京大学大学院博士課程を経て、結婚と出産を機に家業に転向。宅地建物取引士、2級ファイナンシャル・プランニング技能士。夫と2男5女の9人家族